

# 大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

## Outcome report

計画名 Plan	AOGS2025 での研究発表及びシンガポール国立大学訪問
氏名 Name	金居新大
研究科・専攻・学年 Graduate school/Division/Year level	アジア・アフリカ地域研究研究科 東南アジア地域研究専攻 2年
渡航国 Country	シンガポール
渡航日程 Travel schedule	2025 年 7 月 25 日 ~ 2025 年 8 月 4 日

- ページ数に制限はありません。No limits on the number of pages
- 写真や図なども組み込んでいただいて結構です。You can include pictures or illustrations.
- 各項目について具体的に記述してください。Please fill in each item specifically.
- 日本語または英語で記載ください。Please use Japanese or English.

### 渡航計画の概要 Outline of the travel plan

本渡航では、シンガポールで開催されたアジア・太平洋州地球科学学会（AOGS2025）にて、ポスター発表した。また学生ボランティアとして大会運営に参加し、国際的な学生交流を深めた。さらに The 3rd Expert Workshop on Advancing International Constellation of Geostationary Satellites for Terrestrial Monitoring (GEO ワークショップ)にて、口頭発表した。シンガポール国立大学へも訪問し、研究交流を行った。

### 成果 Outcome

#### ① AOGS2025 での研究発表 (写真 1)

インドネシア・カリマンタン島の新首都開発に伴う土地利用変化を、人工衛星データと現地調査により分析した成果をポスター発表した。学会には衛星リモートセンシングの専門家が多く参加しており、研究手法に関して活発な質疑を受けた。特に、現地調査で撮影した多数の位置情報付き写真を活用し、教師あり機械学習に必要な地上検証点を自動的にラベリングする手法には大きな関心が寄せられた。

#### ② 大会学生ボランティアの活動(写真 2)

学生ボランティアとして AOGS2025 の大会運営に参加し、国際的な学生交流に積極的に取り組んだ。特に近年リモートセンシング研究が活発な中国やインドの学生とつながり、研究に関する議論を深めることができた。業務としては「Session Assistant」として発表会場での投影資料管理やマイク渡し、受賞者の写真撮影を担当した。自身の研究分野以外の発表を聴く機会も得られ、視野を広げることができた。

#### ③ GEO ワークショップでの研究発表 (写真 3)

インドネシアの高原地域における地表面温度変化を、現地調査と静止気象衛星「ひまわり 8 号」データを用いて可視化する研究を口頭発表した。静止衛星は地球の自転に合わせて同一地点を継続的に観測するため時間解像度が極めて高く、その特性が高原地域の地表面温度観測に有効であることを示した。

#### ④ シンガポール国立大学への訪問 (写真 4)

シンガポール国立大学の Department of Geography を訪問した。申請者と同様に衛星リモート

センシングの研究を行っている在校生から構内の案内を受け、交流を深めた。

### **今後の展望** Prospects for the future

今回のシンガポール渡航では、国際学会および国際ワークショップでの研究発表に加え、シンガポール国立大学への訪問を通じて、多くの学生・研究者と交流し、人脈を形成することができた。今後は、得られた議論や知見を自身の研究に反映させ、博士予備論文の執筆へと繋げていきたい。

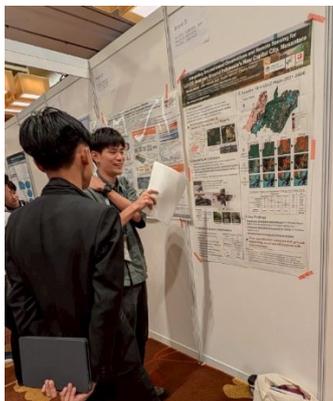


写真 1



写真 2



写真 3



写真 4